特別支援学校における教師の同僚性の向上を促進するシステムの構築
―授業に関する３つの対話の場を通して―

学校マネジメントプログラム
清野　祥範

1. はじめに

インクルーシブ教育の実現に向けて,各学校において教師間で学びあう校内体制の整備が求められる.一方,特別支援学校においては異動による教員の流動化など様々な課題が山積しており,「同僚性」が十分機能していないと指摘されている.日々の同僚性を発展させることが学校ビジョンの共有・創造に繋がるという先行研究を踏まえ、学校ビジョンの共有が不十分である A 支援学校における同僚性を向上させるためのシステムの構築をすることが本研究の目的である.

2. 研究の方法

SWOT 分析により得られた A 支援学校の強みである「授業」をコンテンツに、脇本・町支（2021）を参考に、３つの場を構築・運用した.３つの場とは、事前検討に焦点を当てた授業に関する対話の場としての「まえけん」、これまで実施されてきた研究授業と授業改善会を話題に対話をする場としての「あとけん」、若手教員の対話の場としての「メンターチーム」である.

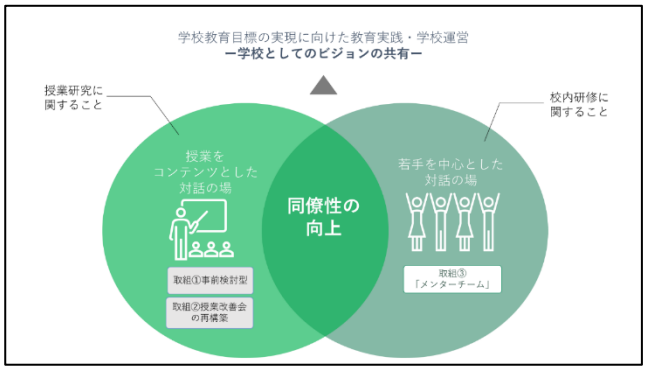

図１　本研究のイメージ

A 支援学校で,令和５年８月末～12 月に３つの対話の場を実施した.この効果を検証するために,まえけんの話題提供者と・あとけんの研究授業実施者（３名）に対して事後インタビューを実施した.また各回のメンターチームの参加者に対して、質問紙調査（回答数 23）を実施した.得られたインタビューと質問紙から,佐藤(2008)の手法で関係図を作成した.

3. 結果

あとけんの研究授業実施者３名のインタビュー結果を佐藤(2008)の手法で分析した結果,後藤（2016）に示される＜教師間の友好な関係性＞＜職能を高めあう関係性＞＜教師集団として協働する関係性＞の概念的カテゴリが生成された.（図２）

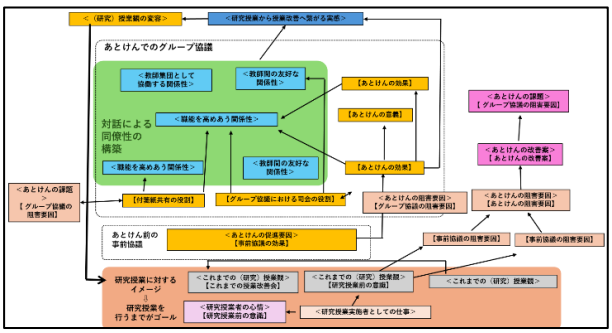

図２　あとけんにおける授業者の意識に関する関連図

メンターチームの参加者により得られた質問紙を佐藤（2008）の手法で分析した結果,後藤（2016）に示される＜教師間の友好な関係性＞の概念的カテゴリが生成された.なお、まえけんについては事情により実施することができなかった.

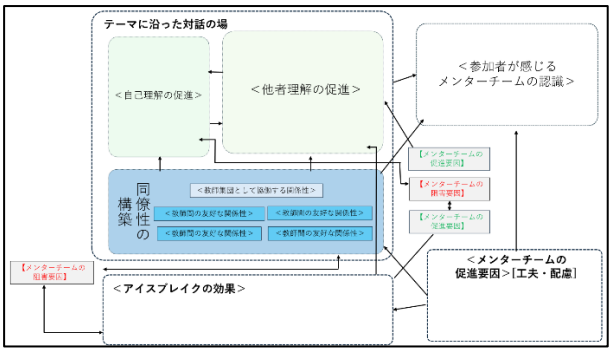

図３「メンターチームにおける参加者の意識に関する関連図

4. 考察

分析の結果から、あとけんは研究授業実施者にとって＜教師間の友好な関係性＞＜職能を高めあう関係性＞＜教師集団として協働する関係性＞を構築する場であったと言える.またメンターチームは、参加者にとって＜教師間の友好な関係性＞を構築する場であったと言える.今後は、同僚性を高めるための対話の場を分掌組織に位置づけ、計画的に実施することが求められる.

5. 主な引用文献

後藤壮史（2016）学校現場における同僚性の構成概念
　についての検討―教員間の関係性に着目して―.奈
　良教育大学教職大学院研究紀要「学校教育実践研究
脇本健弘,町支大祐編著（2021）教師が学びあう学校づ
　くり―「若手教師の育て方」実践事例集―.第一法規
佐藤郁哉(2008)質的データ分析法.新曜社　　など